

中国文房具と煎茶

— 清風にふかれて —

3月2日(土)～5月6日(月・振休) 4/29、5/6は開館、4/25・30日は休館

世の喧噪を煩い、自然の中で哲学や芸術について語らう生活を理想とする文人によって愛好されてきた文房具。彼らの書斎は、文房具を飾ることによって清雅の境地へと昇華しました。また、日本では、中国文人の世界に想いを馳せた人々が集う煎茶席も文房具が清らかに彩ってきました。文人に憧れ、煎茶を愛した住友春翠が集めた文房具・煎茶道具コレクションの展観によって、みなさまを清風の中へいざないます。

文房諸道具 前漢～清時代



日本の書 — 和歌と詩のかたち

5月25日(土)～6月30日(日)

館蔵の住友コレクションより、古代から近世にかけての日本書跡を一堂に公開します。平安貴族の繊細な美意識により完成された「かな」。その白眉とされる《寸松庵色紙》をはじめ、料紙装飾も美しい歌切、歌会でしたためられた和歌懐紙など、鎌倉時代にかけて高揚した和歌の造形を紹介します。そしてそれらを愛でた中近世の文化人らの生み出した新たな詩歌表現の形にも注目します。



文化財よ、永遠に

9月6日(金)～10月14日(月・祝) 9/16・23、10/14は開館、9/17・24は休館

住友財団文化財修復助成によって近年よみがえった国宝や重文を含む文化財を展示し、その修理の最前線を紹介します。泉屋博古館(京都)、泉屋博古館分館(東京)、九州国立博物館、東京国立博物館の4館で同時期開催。京都会場では、修復された古都ゆかりの文化財を通じ、歴史に育まれた思想や信仰、さらには洗練された美意識を感じていただけると幸いです。

大日如来坐像 平安時代末期 12世紀 浄瑠璃寺蔵 撮影:中淳志



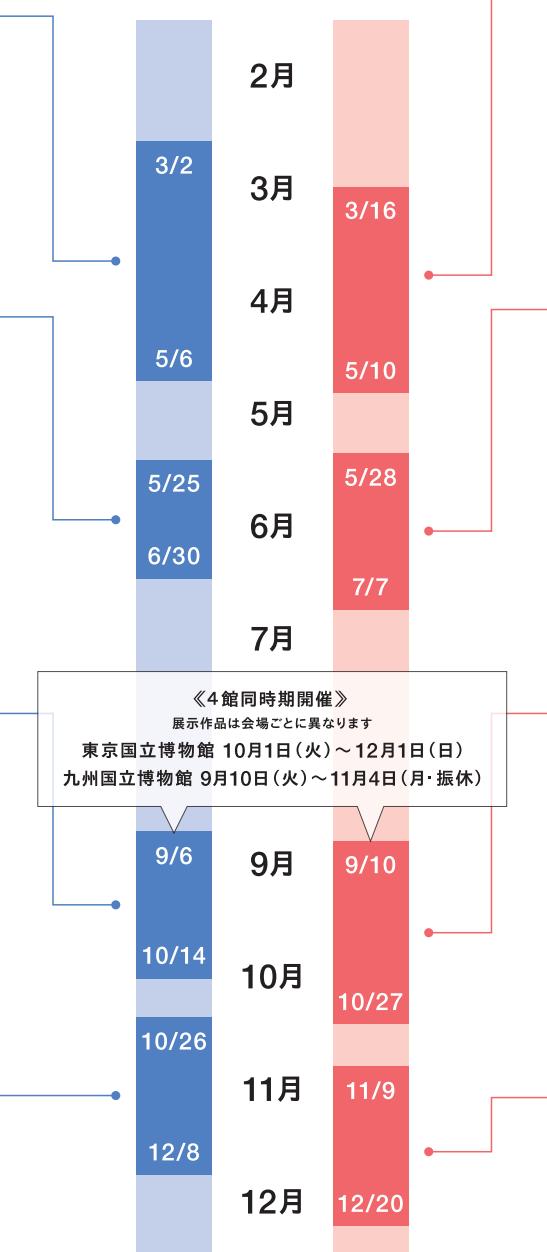
花と鳥の四季 — 住友コレクションの花鳥画(仮)

10月26日(土)～12月8日(日) 11/4は開館、11/5は休館

四季のうつろいの中に植物や鳥獣を描く花鳥画は、東洋絵画の大きな一角を占めてきました。ことに日本の近世には狩野派、琳派、文人画、円山四条派などが多様な展観をみせます。本展では住友コレクションより、伊藤若冲、椿椿山はじめ江戸時代に京や江戸で活躍した画家の花鳥画を紹介します。また彼らの表現の源ともなった中国明清時代の花鳥画もあわせて展示、その技法や表現の比較を試みます。



2019 Schedule



中礼服 北白川宮妃房子着用
明治末期 20世紀 震会館蔵



白紅梅織地朝顔麻葉模様浴衣 昭和時代
20世紀前半 東京都江戸東京博物館蔵



重要文化財 水月觀音像(部分) 徐九方筆 1323年 泉屋博古館蔵(10月1日(火)～10月27日(日)の期間で展示)

華ひらく皇室文化 — 明治宮廷を彩る技と美 —

3月16日(土)～5月10日(金) 4/29、5/6は開館、4/16・30、5/7は休館

明治時代、諸外国との外交のために皇室では洋装を取り入れ、洋食にて國賓をもてなしました。また、伝統文化の保護のため、「帝室」(皇室)が「技芸」(美術)の制作を奨励する「帝室技芸員」制度が誕生します。美術界の最高の栄誉とされた彼らの作品は、日本文化の象徴として海外でも賞賛されます。宮中晩餐会の食器、ポンボニエールなど華やかな宮廷文化と、明治皇室が守り伝えようとした日本の技と美を紹介します。

ゆかた浴衣 YUKATA

— すずしさのデザイン、いまむかし —

5月28日(火)～7月7日(日)

夏の風物詩、ゆかた。和装離れが進む現代においても、夏祭りなどに出かける装いとしてファンを増やしています。ゆかたは、江戸時代に入浴後のくつろぎとなり、やがて夏の気軽な外出着として定着しました。本展では、江戸から昭和にいたるゆかたの意匠や技法に注目します。型紙、当時の風俗が描かれた浮世絵などとともに、素朴でありながら繊細さを兼ね備えたその魅力を、デザイン性と遊びの要素から紐解きます。

文化財よ、永遠に

9月10日(火)～10月27日(日) 9/16・23、10/14は開館、9/17・24、10/15は休館

住友財団文化財修復助成によって近年よみがえった国宝や重文を含む文化財を展示し、その修理の最前線を紹介します。鎌倉時代以降、政治的中心ともなった関東圏には、とりわけ重要な文化財が多く伝わっています。東京会場のひとつ泉屋博古館分館では、鎌倉時代から近代までの主に東日本に所在する絵画・工芸品を展示します。

重要文化財 水月觀音像(部分) 徐九方筆 1323年 泉屋博古館蔵(10月1日(火)～10月27日(日)の期間で展示)

金文 — 中国古代の文字

11月9日(土)～12月20日(金)

今から三千年前の商周時代、様々な造形をもつ青銅器が盛んに製作されましたが、その表面には古代の文字が鋳込まれていました。金文と呼ばれる、現在の漢字の祖先にあたる中国古代の文字は、平面上に「書かれた」ものではなく、鋳物の技術によって立体的に「造られた」ものでした。本展では青銅器にあらわされた文字、金文の世界を紹介するとともに、復元鋳造レプリカやその鋳型を併せて展示することで、鋳物の技術としての文字=金文をわかりやすくお伝えします。



井仁云鐘(部分) 西周時代後期
前8世紀 泉屋博古館蔵